

VoIP/IP電話とアプリ融合を強化 企業の業務改革支援する「SS9100」

国内VoIPトップベンダー、沖電気工業が満を持して発表した新製品が「IP CONVERGENCE Server SS9100」だ。最大の特徴は「.NET」「java」の二つのアーキテクチャ採用による既存業務アプリケーションとの高い親和性にある。

「VoIPの可能性を最大限に引き出し企業のオフィスコミュニケーションを変革する」――。先進的なVoIP製品、ソリューションを提供し続けてきた沖電気工業がVoIP/IP電話のあり方を根底から変える新製品を発表した。従来のIP-PBXとはコンセプトをまったく異にするコミュニケーションサーバー「IP CONVERGENCE Server SS9100」だ。

業務効率、生産性向上を目的に、ITを活用したオフィス業務の抜本的な改革が多く企業によって進められている。だが、各業務プロセスを円滑に遂行するための人と人とのコミュニケーションは依然として従来型の電話によるものがほとんど。企業ネットワークのIP化に伴い、基幹業務アプリケーションが提供する情報処理機能と、電話を代表とする通信機能をいかに効率的に融合するかが、新たな課題として急浮上してきた。

こうした課題を解決するのが、情報と通信を同じネットワークで処理するVoIP/IP電話システムだ。

だが、多くの企業では、VoIP/IP電話システムの導入目的をコスト削減の

みに求めているのが現状だ。その理由を沖電気工業・IPソリューションカンパニーの千村保文バイスプレジデントは、「IP化による情報と通信の融合が急ピッチで進んでいるとはいえ、両者の間には未だに大きな隔りがあります。既存のVoIP/IP電話システムが、従来の電話をベースに開発されてきたためです」と説明する。ビジネスプロセスの改革がコンピューター側からなされている中で、真の情報通信融合を実現していくには、従来のPBX機能を継承しながらも、根底から発想を変えたコンピュータベースのコミュニケーションシステムが必要となっているというのだ。

こうしたコンセプトに基づき、沖電気工業が今年2月に発表したのが、「IP CONVERGENCE Server SS9100」だ。

3つのキーワードを具現化

SS9100は、同社が提供してきたIP-PBXの信頼性や数多くのサービス機能、VoIP製品の豊富な導入実績に基づくセキュリティやネットワーク構築のノウハウを継承。加えて、ハードウ

沖電気工業株式会社

- PART1 「IP電話普及推進センター」紹介
- PART2 音声品質評価ソリューション
- PART3 コンサルティングソリューション
- PART4 教育ソリューション
- PART5 機器実証ソリューション
- PART6 オープンソリューション
- PART7 ネットワーク構築事例
- PART8 ネットワーク構築事例2
- PART9 e音ソリューション
- PART10 ネットワーク構築事例3
- PART11 サービス導入事例
- PART12 情報通信融合ソリューション



沖電気工業株式会社
IPソリューションカンパニー
バイスプレジデント(技術統括)
千村保文氏

エアプラットフォームやOS、プログラム言語を問わずに多種多様な業務アプリケーションとの連携を可能としている。

千村バイスプレジデントは、「SS9100は3つのキーワードを具現化しています」と語る。それが Rich：豊かなコミュニケーション、 Flexible：柔軟なコミュニケーション、 Reliable：信頼性の高いコミュニケーション――だ。

は、通信手段や通信ツールの壁を越えたコミュニケーション環境の実現を意味する。

具体的には、電話をはじめ、FAX、eメール、テレビ会議等の既存コミュニケーション手段、さらにはアプリケーションの画面共有や基幹業務システム上で動く各種業務プロセス間をリアルタイムコミュニケーションで連携する。また、沖電気工業が開発したIP

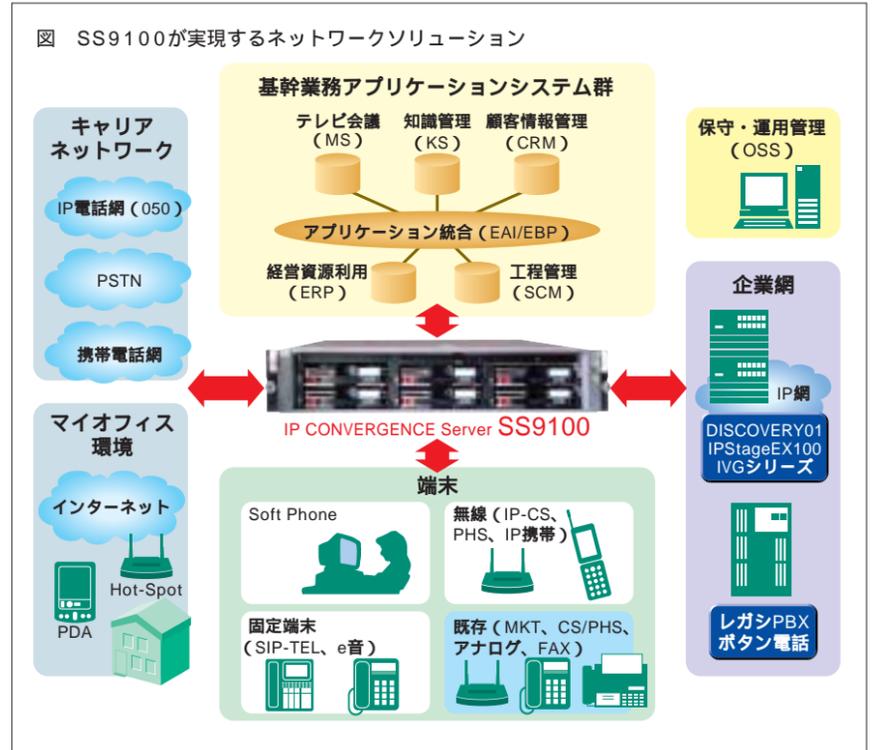
多機能電話機「e音IPフォン」を利用することで、従来の固定電話を遥かに超えた高音質の通話も可能となる。

次に「柔軟なコミュニケーション」については、ソフトフォンのプレゼンス機能により実現。外出先や出張先等、相手の状態に応じ、電話やeメール、映像通信等のコミュニケーション手段をリアルタイムで選択できる。

また、SIPやH.323、レガシーインターフェースにも対応。マルチプロトコルの混在環境でも、端末をシームレスに接続できる。これにより既存PBX、H.323ベースのVoIPゲートウェイ、IP-PBX環境とシームレスに融合。段階を踏んだマイグレーションが可能だ。

の信頼性については、大規模IPセントレックスの運用にも耐える高信頼性を実現。沖電気工業が提唱する「eネットアーキテクチャ」に基づき、単一拠点内での利用から、多数の拠点を収容する大規模IPセントレックスまでをカバーする機能を備える。その1つが「サバイバルボックス機能」だ。

これは、万が一ネットワークに障害が発生しても、各拠点に設置されたサバイバルサーバーが自立的に拠点内のPBX機能を継承、通信の遮断を回避するものだ。また、沖電気工業が運営する「IP電話普及推進センター」のIP電話音質常時監視サービス・IP電話セキュリティサービスと組み合わせることで高品質なIP電話通信を維持できる。



柔軟なアプリ連携実現

アプリケーション連携は、SS9100が最も強化したポイント。千村バイスプレジデントは、「電話の側からインターフェースを開示し、それに合わせたアプリケーションの開発をしてもらうのではなく、アプリケーション側が自在に連携できるAPIを用意しています。この点が従来のVoIP/IP電話システムとの大きな違いです」と語る。

具体的には、業務アプリケーションとVoIP/IP電話を柔軟に連携する仕組みとして、マイクロソフト社の「.NET Framework」や、BEAシステムズのアプリケーションサーバー「WebLogic Server」の2つのアプリケーションアーキテクチャに対応。こ

れにより、企業の情報システム部門をはじめ、SIベンダーの技術者は新たにVoIPスキルを修得しなくても、簡単に既存アプリケーションとリアルタイムコミュニケーションを連携できる。千村バイスプレジデントは、「こうした仕組みにより、アプリケーションベンダーやシステムインテグレーター等の販売サイドからも“自社独自の付加価値提案ができる商材”として注目をされています」と語る。

今後、コスト削減から経営課題を解決するVoIP/IP電話システムに対するニーズは一層の高まりを見せていくだろう。コミュニケーションと業務アプリケーションの柔軟な連携を実現するSS9100の登場によって、情報通信融合市場は一気に加速しそうだ。